

新型コロナ 5 類移行から 2 年…今も侮れない その特徴は？ インフルは「夏流行」

10/6 0 熊本放送



熊本放送

<https://news.yahoo.co.jp/articles/562fc784e0cbeb3de4912963188b73ad56f632a7>

「新型コロナウイルス」の感染症法上の位置づけが、5 類に移行してから 2 年以上が経ち、市民生活はコロナ禍前に戻る一方で、今も多くの感染者が確認されています。

さらに、別の感染症の流行の時期には変化もあるようです。

なかの耳鼻咽喉科アレルギー科クリニック 中野幸治理事長「コロナが夏の盆あたりから増えていたが、ようやくピークを過ぎて減ってはいるなど。ただ未だに熱が出て喉が痛いとなるとコロナの感染者が多い。検査をすると、え?という感じで」

県によりますと、県内では 8 月中旬の 1 週間に今年最多となる 906 人の新型コロナの感染者が確認されています。先週の時点でも、依然 639 人の感染が報告されています。(※放送 2025 年 10 月 1 日) いまだ強い感染力を見せる新型コロナですが、その症状は変化しています。

■新型コロナの症状に変化

中野幸治医師「コロナ禍は、臭いがしないとか、味覚がないという方が結構いたが、最近の傾向は、そういった方はほとんどいない むしろ喉が痛くて熱が出るケース。以前に比べると比較的、軽症な方が多い印象」

症状が軽いため感染に気付かず、周囲にうつしてしまうケースも少なくないということです。なぜ、夏に感染が拡大したのか。中野医師は夏場の生活様式が理由のひとつだとしています。

中野幸治医師「真夏と真冬に 2 本線のピークを見せている。夏場は暑くなると換気をしにくくなる。換気をしたとしてもそのあとに密閉する空間になってしまう」

■街ゆく人に「マスクしていますか？」

加えて、新型コロナや感染症対策に対する意識の変化も関係しているとみられています。街ゆく人は…

大学生「いまは怖いとかはない」

高校生「コロナ禍の時は家にいないといけなかったから、今のほうが楽しい」

高校生「マスクをみんなしていないのが一番の理由。高校に入ったらみんなしてなかった
ので」

一方で、コロナ禍を経て予防が当たり前になった人もいます。

80代「買い物をしてもそのまま家に入るのこわくて消毒をしている神経質になった」

50代「習慣づいた コロナ禍に入ってから」

■「侮れない感染症」に変わりなし

年代や職業によって意識に違いはあるものの、中野医師は、新型コロナは今も侮れない感染症だと話します。

中野医師「確かに若い人S重症化は少ないが、いまだに65歳以上の方いろいろな合併症
を持っている方は重症化しやすく、まだまだコロナは容易い病気ではない」

飲食店のパーティションなどはあまり見かけなくなりましたが、コロナ禍以降も対策として残っているものもあります。

その一つが「剣道の面」です。

剣道は、近い距離で大声を出すことから、競技団体のガイドラインでは、マウスシールドやマスクを面の内側につけることが定められています。

■インフルエンザは流行期

そして今年は、別の感染症の流行時期に変化あるようです。

中野医師「インフルエンザに関しては子ども達はつらい症状をもっている」

例年、12月から3月に流行するインフルエンザの「夏の流行」が確認されています。熊本県は9月に入り、1定点あたりの報告数が目安を超えたことから、インフルエンザが流行期に入ったとしています。

これは過去5年間で最も早い流行だということです。

さらに、理由は明らかになっていないものの、今年のインフルエンザの症状には全国的に共通した特徴があるといいます。

中野医師「胃腸症状の訴えが多い。ムカムカすると」

コロナ禍の感染症対策の徹底で免疫力が低下し、様々な感染症が流行する恐れもあるという
ことです。

中野医師「いったん感染が出ると歯止めがきかないくらい一気に流行する状況がある。マ
スクをしてそれぞれがメリハリのある感染症対策・予防をやっていくのが良い」

県によりますと、すでに9月だけで県内7つの小中高校でインフルエンザで休校や学級閉鎖になっています。

新型コロナの感染拡大から5年、5類移行から2年以上が経ち意識は変化していると思いますが、他の感染症を予防するためにも日常的な対策は必要かもしれません。